

連載 第6回 材料委員会

材料委員会

診療材料委員会、物流管理委員会など名称はさまざまですが、診療材料の採否を決定する場を設けている病院は多いと思います。私もこれまでコンサルタントの立場、またSPD事業者の立場としても多くの病院で材料委員会に参加してきました。しかし、委員会が形骸化しているという悩みや、組織があるにもかかわらず開催されないという話を耳にすることがあります。

材料委員会のメンバーは医師、看護師、コ・メディカル、事務で構成され、委員長に医師、事務局を購買部門が担うという形式が多いのではないのでしょうか。新規で購入・使用したい材料を事前に申請し、当日は製品の優位性や必要性を申請者が説明、委員の皆さんから意見・質問を募り、特に異論がなければ購入を許可……という流れで進むのが一般的かと思います。

「必要なら購入やむなし」の結論に至るケースがほとんどですが、近年はベンチマークを調査して、どのランク（A、B、Cなど）にあるかという経済性の議論も展開している病院も増えているようです。しかしこれも、平均より高額であれば「保留」、「再交渉」と差し戻されて先述の流れに立ち戻るため、いまひとつ本質的な議論に至っていないところはもったいないと感じています。

取り組み事例

私が支援している自治体病院でも約10年間、材料委員会が開催されていなかったという事例がありました。コスト改善活動の一環として、委員会の立て直しからかわることになったのですが、やってみると意外に参加者の反応がよかったことが印象的でした。

とはいえ、10年間も実施していなかったので、若手の購買担当者も勝手が分からず、最初の数回は配布資料の不備など段取りの悪さを指摘されて冷や汗をかく場面もありました。しかし、回を重ねるにつれて、医師から前向きな意見が聞かれるなど、徐々に手応えを感じながら定期開催まで整えることができたのです。今後も他院での成功事例や情報収集をはじめ、さまざまな工夫を凝らしながら病院にとって有意義な委員会に育てていきたいと考えています。

診療現場へのフィードバック

先述の材料委員会では、議論した内容や新規採用の審査結果を診療現場に共有する流れがなかったので、ひとつのアイデアとして「コスト改善ニュース」や「コスト意識啓発ポスター」（別図）を作成して院内にフィードバックするようにしています。

「コスト改善ニュース」には、光熱費の高騰や材料コストの意識啓発につながるようなテーマの記事も掲載しています。職員全

体に浸透させたいという目的もあるので、院内のイントラ（掲示板）に掲載することに加えて、職員の更衣室の出入り口にA3判にしたものを貼るなどして、日常的に目に入るような方法を模索中です。

このような施策は材料委員会のメンバーに対してコスト改善活動への自覚を促し、病院全体でコスト削減に取り組むことが職員全体のコスト改善意識の底上げにつながるため、地道に継続することが大切だと思っています。

委員会を活性化させるポイント

そうはいつでも委員会をどのように運営していけばよいのか……、そもそも現場が新規申請を上げてくれない……と事務の方々から悩みの声を聞くことが多くあります。ここでは私の経験から言えるヒントをまとめてみましたので、参考にいただければ幸いです。

①開催頻度

中小病院では特に、毎月開催しても申請数が限られ、事務の負担も大きいため、まずは年4回（四半期に一度）とし継続性を重視する。

②内容に工夫

新規材料の採否だけではネタが足りなく議論も深まらないので、コストに関する情報共有の場にする。例えば、光熱費の年度推移を披露してみる。

③事前準備

委員長には事務から事前にレクチャーを行い、今回の会議のポイントを明確にする。どういう発言をしてもらうかも根回しして

別図 コスト意識啓発ポスター



おくとよい。

④当日の進行

できるだけ短時間で手際よく進行する。だらだらした会議を繰り返していると参加者の足が遠のく。

また、配布資料を全員分印刷している医療機関もまだ多いと思いますが、プロジェクターを使用して資料の配布を廃止すると、ペーパーレス化によるコスト削減にもつながりますし、グラフや写真を多用できるので、議論の活性化が期待できます。

材料委員会は経営を司る事務から発信する数少ない機会でもあります。コスト削減に踏み出す土台として、院内での人脈づくりにもうまく活用してみたいはいかがでしょうか。